



受験サプリ

「受験サプリ」を先取り学習と復習に 学年ごとの活用法で、自主性を育む

— 西大和学園中学校・高校(奈良・私立) —

取材・文／丸山佳子



教頭
中岡義久先生

School Data

創立1986年／普通科
生徒数941人(男821、女120／高校のみ)
進路状況(2014年度)大学進学62.5%、留学(海外大学進学)0.6%、その他36.9%
奈良県北葛城郡河合町薬井295
TEL 0745-73-6565
URL <http://www.nishiyamato.ed.jp>

■ 3通りの「受験サプリ」活用法

● 3年生は受験の復習対策に



高校3年生学年部長
飯田光政先生



「生徒に『受験サプリ』のテキスト希望を募ったところ、課題にした数学のセンター試験テキストだけでなく、中学の復習をしたいという生徒もいて、1人平均10冊に、3300冊のテキストを担当教員が丸一日かけて仕分けしました。今春は京大合格者数で全国1位になりましたが、現3年生は東大志望者が多かったため、同校初の「東大クラス」を設置。来春の結果が楽しみです」

● 生徒が校長にインタビューし、自分たちで活用法を考える2年生



右・高校2年生、
中高一貫クラス学年部長
宮北純宏先生
左・高校2年生、
高校入試クラス学年部長
岡 亮治先生

今年2月に発行された学年通信「陽あかり」に掲載された、生徒の記事。「校長から反転授業などの活用法を聞き、自分たちで記事をまとめています。4月から本格活用するので、生徒と一緒に考えたい」と宮北先生と岡先生。



● 1年生は定期考査で活用



高校1年生学年部長
荻原琢磨先生



定期考査の試験範囲に「受験サプリ」を加える提案書を作成し、校長にプレゼンテーションをしたという。

西大和学園高校は、ここ10年、東大・京大合格者数で全国トップ5に入る注目校だ。「次世代を担う高い理想と豊かな人間性を持つリーダーの育成」を教育目標とし、単に受験対策を行うのではなく、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)やSGH(スーパーグローバルハイスクール)指定校としての取り組みのほか、ハーバード大学での次世代リーダー養成プログラム、東大Live講義、模擬国連、海外探究プログラムなど、多彩な体験学習を実施。主体的な学びと探究心の育成が、進学実績に結びついている。

生徒が興味をもったときに 先取り学習できる「受験サプリ」

同校に入学するのは、多くが東大、京大、国立医学部志望だが、通塾している生徒はほとんどいない。そんななか、昨年、「受験サプリ」を新教材として採用した。「志望校に合格するだけなら、授業だけで十分です。しかし、基礎からハイレベルまで学べる『受験サプリ』があれば、ピン

ポイントで予習・復習できる。特に、生徒が興味・関心をもったときに飛び級して主体的に学習でき、『学問研究ツアー』で最先端の大学研究室までのぞけたり、『よのなか科』などの教養講座があるのがいいですね」と中岡義久教頭。ただし、活用法は学年部長に二任しているという。同校では、生徒の中学、高校入学時から卒業までを1人の学年部長が責任をもつ「学年責任制度」を取り入れているからだ。

学年部長が自由に方針を決める 「学年責任制度」が革新教育の源

現3年生は、同校創立以来初めて、1月から3年生のカリキュラムをスタートさせた学年だ。「前倒しをしたのは、これまでの指導では、理・社の復習時間が足りないからです」と、この学年をまとめる学年部長の飯田光政先生。「『受験サプリ』は、英・数・国を先行復習するには格好の教材。教科担任に動画授業とテキストを検討してもらい、数学のセンター試験用のテキストを3年生

全員の課題に決めました。あとは生徒の主体性にまかせ、教科担当からアドバイスをするようにしています」と話す。現高校2年生は、昨夏、同校で初めて授業にiPadを導入した学年。しかし、「受験サプリ」の本格的な活用は、これからだ。

「私がiPadを提案したのは、新しいツールで何ができるか、生徒に考えてほしいからです。『受験サプリ』に関しても、上から押しつけるのではなく、どう活用すれば効果的かを生徒に考えてもらっています」と学年部長の宮北純宏先生。

一方、この春高校1年になった学年は、「受験サプリ」への関心が高いという。「中学3年の時点で、高校2年、3年のハイレベルの動画授業を見て、テストにチャレンジしている生徒たちもいました。他の生徒へのいい刺激になっていますので、今後は、定期考査に『受験サプリ』の問題も取り入れようと考えています」と、学年部長の荻原琢磨先生。学年部長が方針を決定し、他学年と競い合う。これも、同校の大きな特徴だ。